

これまでの議論・取組

今後の取組

1 背景

- 少子高齢化が今後ますます進展し、2040年には65歳以上の老年人口が35%を超えるという予測がある。
- 生産年齢人口が減り、地域が活性化せず沈滞化していく。

2 方向性

- 生産年齢の若い人たちが入り込んでくるような町にするための取組みを考える必要がある。
- 生産年齢世代が積極的に地域に関わって活動してもらえる環境づくり。
- どうやったら若い人が住めるようになるのか、住みやすいところとはどういうところかを考える。
- 市民レベル・市民目線で、少子化を食い止めるために必要な取組みを考える。

- ・ 親や子が身近で遊べる場所や機会づくりを考える
- ・ 子どもが育てやすい環境とは
- ・ 多世代が互いに協力し合い、共生し合う町
- ・ 高齢者も若い人も巻き込んだコミュニティの形成による子どもの居場所づくり

これまでの主な意見

- 千葉県流山市での重点的な取組を調査
- 若い世代（学生）が感じる魅力についても調査が必要ではないか。
- 区内・近隣にある6大学の学生向けに、高齢化で出てきた空き家をシェアハウスとして活用が考えられないか。また学生のニーズを調べる必要があるのではないか。
- 行政等で既に取組を精査し、既存の取組との整合・連携が必要ではないか。

3 審議テーマを決定

- ① 麻生区の魅力のブランド化とPR
 - 子ども達とその親などが集う「場」づくり
- ② 空き家の利活用

4 審議対象の設定

- ① 対象として30代～40代の子育て世代を想定
- ② 対象として学生を想定

5 調査

① 麻生区の魅力のブランド化とPR

千葉県流山市の取組調査を実施

- 30代～40代の共働き子育て世代をターゲットに、自然の豊かさなどブランドイメージを作り上げた。（保育所利用者に対する駅前送迎サービスなど子育てしやすい環境づくりを進めた。）

子育てフェスタ内でアンケート調査を実施(9/13)

- 子育て世代の感じる麻生区の魅力を調査するため、あさお子育てフェスタ内で、運営スタッフとして参加しながらアンケート調査を実施。
- アンケート268件の内、子育て世代の感じる麻生区の魅力について、「緑が多い」が一番多く、次に「治安が良い」が多い。また、「人間関係が良い」、「交通の便が良い」も多い。
- アンケートの内、麻生区にある魅力の中でさらにPRしたらよいものとして、緑が多いこと、治安が良いことが多い。
- 麻生区に住むこととなった経緯について、「結婚をきっかけ」にした人が一番多く、次に「出産をきっかけ」にした人が多い。
- 「文化施設が充実している」、「芸術のまち」について、年齢が若いほどあまり魅力として感じていない。



大学へのヒアリング調査を実施(10/6)

- 学生または学校から見た麻生区の魅力を探るため、4つの大学へヒアリングを行った。
- 新百合ヶ丘周辺大学の学生から見た麻生区の印象について、安全で緑が多く、落ち着いているといった印象を持っている。
- 麻生区の外れにある大学は、学校説明会等で、特に麻生区の魅力はPRしていない。

② 空き家の利活用

市・まちづくり局の取組のヒアリングを実施

- 空き家の予防的取組として、利活用・流通促進を検討している。
- 王禅寺と東百合丘でアンケートを行ったが、今後、同様の内容を平成27年第1回かわさき市民アンケートにて実施し、全市的な展開も検討する。

不動産業者との意見交換を実施

- 空き部屋を貸してもよいという大家さんはいる（高齢者）。
- シェアハウスや地域のカフェのように活用したい場合は、人が集まりやすい、流れのある場所がよい。

大学へのヒアリング調査を実施(10/6)

- 学生の住まいに関するニーズを探るため、4つの大学へヒアリングを行った。
- 日本映画大学では、シェアハウスについて学生にアンケートを実施しており、179名の回答のうち、71人がシェアハウスをしてみたいと回答している。また、現在URと百合丘団地等で事業を進めている。
- 昭和音楽大学と日本映画大学について、地元の理解・協力がああり、区役所の支援があれば、シェアハウス等の事業が実施できる。

① 麻生区の魅力のブランド化とPR

- 魅力のPR対象を30代～40代の子育て世代とし、子育て世代と若い世代の感じる魅力についてアンケート・ヒアリングを実施。
- 【調査・議論を踏まえた結果】
- 考えていたよりも、麻生区に魅力を感じている事がわかった。
- 芸術・文化について、若い人たちにはなかなか浸透していない。
- 【今後の方向性】
- 結果の内、さらにどこをPRしたいのかを検討する。
- 緑が多いことや治安が良いことも魅力になりえるが、それ以外の芸術のまちなど、目玉となるものが必要。
- 具体的な魅力のPR方法を検討する。
- 区内に対する広報手段は多くあるが、外に発信する手段を検討する。

② 空き家の利活用

- 不動産団体との意見交換、若い世代（学生）のニーズ把握のため大学へヒアリングを実施。
- 【調査・議論を踏まえた結果】
- 学生の寮に対する意識について、昔は4人部屋、2人部屋が普通であったが、最近では1人部屋が主流となってきており、学生の気質が変わってきていることがわかる。
- 【今後の方向性】
- 学生に対して、若い世代に対して必要なことと、どのような機関との調整が必要なのかを検討する。

フォーラムの検討・開催

提言の取りまとめ

提言（報告書作成）